



平成27年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【星が丘地区】

平成28年3月31日現在

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1 やさしさいっぱい星が丘を創る会	認知症を正しく理解しよう	高齢社会を迎え認知症の方々が増加し、時々「ひばり放送」でも発信されている。家族も知らない中で近所に迷惑をかけている事もあり、今後一層、病気の人は増えていくと考えられる。	住み慣れた所で一生過せる地域づくりのため、正しく認知症を知り、予防法や進行停止、病気の人との接し方などを住民に周知し「やさしさいっぱい星が丘」を創造する。	・「認知症とは病気である」「認知症の人を見つけた場合どうすればいいか？」などをわかりやすくマンガで周知する。 ・9月から3月まで月に一回、8コママンガを発行し、自治会などに回覧する。 ・星が丘公民館や自治会掲示板などにポスターを貼り、マンガについて周知する。 ・ふれあいフェスティバルなどで、高齢者支援センターのブース内にマンガの紹介コーナーをつくり周知する。	10月2日	350,000	350,000	350,000
2 星が丘地区ふれあいフェスティバル実行委員会	星が丘地区ふれあいフェスティバル	・地域で活動している団体のメンバー不足、高齢化 ・地域内のコミュニティづくりの必要性	・星が丘地区の住民が一堂に会する場を設け、地域で活動する団体の活動を周知し、それぞれの団体の活動を知ってもらうきっかけをつくる。 ・事業を通じていろいろな団体・個人が交流を深めることにより、地域の活性化に寄与する。	<日時> 平成27年10月25日(日) 午前10時から午後3時 <会場> 星が丘小学校 <内容> ・各種団体による事業紹介 ・各種団体の加入促進 ・各種団体による模擬店 ・子どもや家族向けのステージイベント、アトラクションの実施	10月2日	980,000	900,000	900,000
3 認知症の予防を考える会	音楽や回想法を利用した認知症予防事業	星が丘地区においても、高齢者の増加に基づき、認知症患者の増加が予想される。近未来予測で、相模原市の総市民数を80万人とした場合、認知症人口は推計2万人になるとの試算もあることから、可能な限り認知症の予防を考えて行くことは重要である。	認知症の実態を知り、予防の重要性を再認識することで、住民の意識改革を促進することを目的とする。	・パンフレットや地域情報紙で事業への参加を呼びかける。 ・11月から月2回程度、星が丘デイサービスセンターや自治会館を会場として、認知症予防講座を開催する。 ・音楽や回想法などによって、脳を活性化することで認知症を予防する。 ・認知症予防プログラムが入っている音響機器を使用し、歌を歌ったり、体を動かしたりして、楽しく認知症を予防する。	12月1日	150,000	150,000	150,000

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
4 照手姫伝説普及委員会	照手姫伝説普及事業	相模原に伝わる照手姫の物語は、歴史価値を含んだ地域の物語として多くの人に知ってもらいたいところである。過去には小学校での物語り本の配布や市によるキャラクター作成でのアピール、地域団体による紙芝居等が行われてきたが、物語をさらに地域に根ざしたものにするためには新しい伝承方法が必要だと思われる。	・照手姫の物語をDVDにより伝承することで郷土愛を醸成する。 ・DVDの作成に地域人材を活用することで、地域の連携を強化する。	・地域で活動している2つのコーラスグループが、公民館まつりで合同でオペラを演じる。 ・公民館まつりで完成したDVDの上映を実施する。 ・DVDを各自治会や近隣公民館、小学校等に配布する。	1月25日	200,000	200,000	200,000
5 地区の安全を推進する会	交通安全標語幕作成事業	・中央区は自転車事故が多く、星が丘地区でも今年度は9月の時点で33件の自転車事故が発生している。 ・星が丘二丁目交差点信号は歩車分離式となっているが、周りには数が少ない信号のため注意喚起の必要が出ている。 ・横山公園の駐車場から出たすぐの交差点は直進のみであるが、標識がわかり難いという苦情が多く出ている。	注意喚起の幕を地区内に設置することで交通安全を推進し、安全で安心して暮らせるまちづくりに寄与する。	・一時停止すべき交差点などに「自転車もとまれ」の幕を設置する。 ・歩車分離式になっている星が丘二丁目交差点信号付近に「注意 歩車分離信号」の幕を設置する。 ・横山公園近くの右左折ができない交差点に「この先直進のみ可」の幕を設置する。	1月25日	836,000	830,000	830,000
6 シルバー110番普及実行委員会	高齢者にやさしいまちづくり事業	・となり近所との関係の希薄化 ・高齢者世帯の増加(核家族化) ・家族の役割の変化 ・互助の概念の変化	高齢者の相談受付窓口になる家を選定し、高齢者の悩みごとの解決の一助とし、高齢者にやさしいまちづくりを目指す。	・シルバー110番の家のプレート掲げた家に高齢者の相談受付窓口になってもらい、民生委員や高齢者支援センターにつなげることで高齢者の悩みの解決を図る。 ・シルバー110番の家の看板プレートを掲示する家や商店を増やしていく。 (自治会役員、民生委員、自治会長・民生委員経験者、地域内店舗、希望者等)	1月25日	575,400	570,000	570,000
						3,091,400	3,000,000	3,000,000